

同門会の先生方へのご挨拶

同門会の諸先生方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

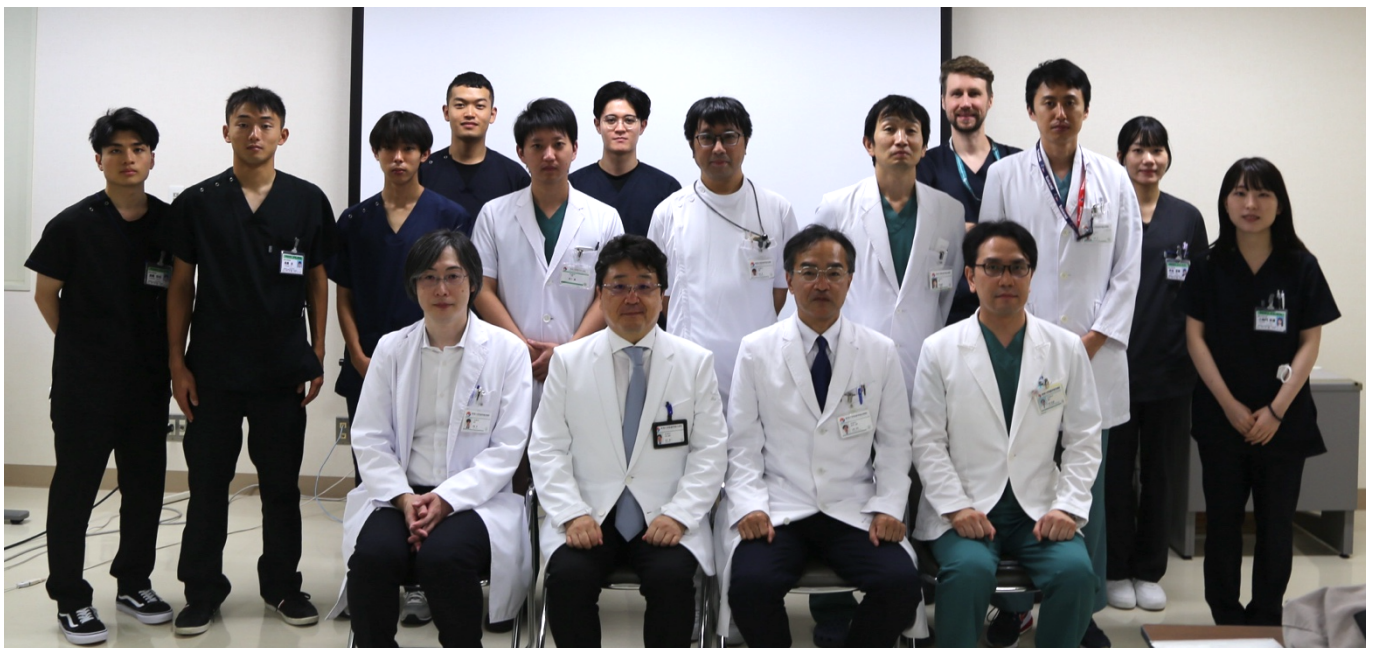
この度、私、土屋淳紀は、2024年11月1日付けで山梨大学医学部内科学講座消化器内科学教室、教授を拝命する事となりましたのでご報告並びにご挨拶申し上げます。

新潟大学医学生時代より、運動会の際には当時第三内科の打ち上げに参加させていただき、非常に親近感を覚え、そのまま研修・入局をさせていただきました。学生時代に準硬式野球部での新入生歓迎コンパで初代 市田文弘名誉教授とお会いできたのも今思えば、非常にありがたい貴重な経験でした。



入局後には、朝倉均名誉教授、青柳豊名誉教授にご指導いただき、臨床と共に京都大学小児科で3年、エジンバラ大学再生医学研究所で2年研鑽を積むことができ臨床と基礎の土台を構築する事ができました。

2015年からは、寺井崇二教授のもと、臨床と基礎で後輩を指導する機会をいただき、臨床では数えられないほど多くの先輩・後輩と一緒に、そして基礎では26名の大学院生と留学生と研鑽を積むことができました。一步一步積み上げて行くことで、細胞外小胞治療開発やペプチド療法での肝線維化改善例の経験など当初予想もしていなかった多くの成果を得ることができ非常に充実した日々を送ることができました。京都そしてエジンバラでわがまを言い学ばせていただいた恩返しを微力ながら、この期間、できたのではないかと考えております。





こうして振り返ってまいりますと、各場面場面で、多くの同門の先生のお力添えをいただきながら、また、時には励ましのお言葉をいただきながら育てていただき、そして今日がある事を強く実感しております。大学から新潟に約30年おりますと既に、18歳まですごした故郷の横浜の記憶は薄れ、新潟は私にとって一番のふるさととなりました。

これからは、一プレーヤーではなく、しっかり県内、医局内をまとめて行く能力が強く要求される立場である事を実感しております。私がかねてから大事にしている”Men and women for others with others”（他者と共に他者のための人であれ）を、医療を通して実践して行く事を基盤に、チームの協調性・そして個々のレベルアップを基本軸にし、山梨大学消化器内科で努力していく所存です。

同門会の先生におかれましては、幸いに同じ甲信越地区ですのでこれからもお会いする機会が多いかと存じます。どうか先輩、同僚、後輩として引き続きご指導、ご鞭撻いただけましたら幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

2024年10月18日

新潟大学大学院医歯学総合研究科

消化器内科学分野 准教授

土屋 淳紀 拝

